夕刊 磐城新報
一月二十五日發行
（日曜祭日翌日休刊）
發行所 磐城新報社

# 日本に於る農業の重要性及農村人に告ぐ

早大政治經濟科 中村正夫

一

我が國の農業國たるは遠く建國の始めより「水穂の國」即ち農業を基とせる國と云ふ事に淵源して居るのである。此の農本國たる我が國は爾來農業を基礎とせる國政を施行し來つたものであつて、就中彼の郡國主義を採り、二百數十年の封建制度を遵奉せし德川時代に於て其の施政の代表的農本なるを判然と證明せらるゝであらう。斯くの如く建國の古より德川末期に至る二千五百有餘年、我が國施政の根本を成し又大多數の人民が從事し來つた農業も明治維新以來諸外國との貿易が開始せらるゝに至つて次第に其の我が國に於る重且大なる地位を他の產業に讓渡せねば成らぬ樣に成つた事は、吾人の容易に認めらるゝ事であらう。が併しながら尙農業の我が國經濟に對して、重大なる地位を占るものであると云ふ事は多言を要せぬ事である。其の發年を閲すること六十餘年、現在の我が經濟に農業が如何なる地位を有して居るかを考察するに、吾人は何人も甚しき轉變を痛感する事と思ふ。即ち我が國現在の豫算は實に二十餘億圓を占るに至つて居るのである。然るに我が國政治及經濟の根本を成し來つた農業は其の副業生產品を合併しても僅々二十億圓に滿たざる今日、而も我が人口の四十八パーセント約半數が此の農業に從事して居る現在は、農業は勿論大切であるが併し農業にのみ依りては到底我が國の經濟的獨立は立行かない狀態にある事は云ふ迄もないのである かゝる事情に於て農村問題の起るのも又當然の事と云はなければ成らない

此の農業の不利な立場を補足救濟し、進んで我が國の產業を世界的に發展せしめたものは明治以來海外諸國との取引に依つて發展開發せられし工業の力である

## 女ごころ

岡田千秋

戀の懸引
さて裏表
四十八手の
鮮やかさ
なんで乘りませう
のせられませう
乘れば危い
口ぐるま
花よ、蕾と
囃して置いて
女ごころを
引いてみて
靡くそれまで
親切づくめ
ちよいと便利な
空なみだ
一度散らせば
また咲くものか
女ごころの
戀の花
覗るお方は
この世にひとり
決めて開けませう
胸の扉を

## 潮聲硯靜抄帳

課題吟 秋の風 渡邊何鳴選

入選句

秋風に鷄が押されて歩るき居り　武門
秋の風少年土堤を走りけり
後より秋風の吹く並木みち　對星
秋風や大樹かぶさる運動場
船舫ふ鐵鎖さびたり秋の風　文狂
木の葉一つ緣に舞ひおつ秋の風　石城
秋風のわたる音あり雜木山　花里

## 某日吟

木村螢秋

○故郷に貧しく新年（とし）を迎へたるうから思へば佗しかりけり
○故郷に歲暮の金も送らざり正月となり既に半（なかば）すぐ
○我がかへり待ち居む故鄕（くに）へ金は送り春の休暇も歸らんとせず
○ガラス戸に吹きおろし夜風をさまりてかたぶく月は窓を照らせり
○霜ふかき曉起きて氷割る弟の病いまだ癒えずも　弟肺炎
○譫言（うはごと）をいひ續けゐし弟よ夜半（よは）に起ききて吾を呼びしか

## 二月題詠

梅。よろこびの歌。（數に制限なし）
締切一月二十八日

## 1月26日

△種痘の發明家ゼンナ歿す（一、八二三）△聖上陛下御婚儀（大正一三）△大アジア協會創立委員會を東京に開會（昭和八）△福岡縣小學校赤化教員大檢擧△スターリン氏共產黨大會席上日露關係改善の必要を强調す（同九）

## ひその日

○このごろ、冬の若い女は、ショール一つで、とてもきれいに見えるものだと、しみじみ感ずる——。

## 講談 戸隠奇譚 山の怪秘 (93)

丸山寬雄作 眞木浪畫

蛇寺（三）

平七郎は、いぶせき野をの御堂ではあるが、夕餉中終つて腹稍へが出來てくると心が緊張するのを覺へた。今日、この宿場茶屋の前でやつた大きな失策。それを考へ直す事は苦痛であつた。よしそれが馬鹿彥と呼ぶ白痴男の惡戲であつたにせよ、瀞之丞を取り逃したことは失敗に違ひなかつた。あの立合中あんな突發的なことを馬鹿がやらなかつたなら瀞之丞を確に討ちとつたのだ。少くとも平七郎の本格に鍛へ上げた劍法から推せば、この自信は確にあつた。で——惜しいことをしたといふ氣持ちは勿論してゐた。平七郎は運命の神になぶられてゐるやうな氣もした。蛇のために禍ひされ、こんどは蛇のために幸ひされるかも知れない

平七郎はもはや焦らなかつた。人間焦ることは、えてして目的物を掴み得ない事實が多いから。さうだもつと心を鎭めて目指すことだ。平七郎はこう考へて來る自分の氣持ちが偉いものだと悟つた

今迄經て來た道はどうか それは何れも頭や胸が前のめりになつて足ばかりが出ないやうな歩き方をして來た。たゞ徒らに血氣にはやつて先きを急ぐだけで落ちついた方針も考慮もなくひた向に追ひかけて來たゞけではないか。これではいけないと思つた。そんな意志だけで動いて來たから五倫平の銘不動ぞ下は岡崎典膳を通したのではないか。今日の事でも往來の激しい街道で名乘りをかけたことが、場所柄考へか誤つてゐやしないか。今から考へると、こんな人通りの往來で敵對したことが、そもそもの失敗のやうにも思へた。して見ると、瀞之丞が怨む筋合ひでもない。自分が惡いのではないか、思慮が淺かつたのに原因してゐるのだ

これからは大いに反省する必要がある。たゞ血氣や意氣だけでは駄目だ！

平七郎はさまざまに思ひくだきながら、馬鹿彥が吊つてくれた須彌壇の蚊帳の中で輾轉反側してゐた

氣がついて見れば足許の方にも一人、轉がつてゐる馬鹿彥だ。太い兩脚を遠慮もなく打ち振げて、四邊構はず雷のやうないびき聲を出してゐる

貧に惠まれた幸福人だ。何の屈託も心配もない街道を上下して氣隨氣儘に振舞ふことも出來れば、夜は夜でこんな人間でも安全にあづかつてくれる、尼僧妙心といふ人間もある。天道人を殺さずとはよく云つたものだな

平七郎は樣々な考へ事で眠られぬまゝに馬鹿彥の寢像を觀察した

然るに自分はどうだ。數々の重荷を背負つて寢ても覺ても、それ等の計劃と實行のことで一杯ではないか。折には、この白痴男のやうに頭の中を空洞にしたらどんなに氣持ちが晴れるだらう

平七郎は横向きとなつて何時迄も羨ましげに馬鹿彥の顏を見つめてゐた

その時、風もないのに須彌壇の燭臺の燈明が、かすかに横に動搖した。その氣配を感じた平七郎は上目を使つてその方を窺つた。と少し離れて吊られた妙心の蚊帳の裾がはねたので、その途端、燈が搖れたものと判つた

見れば、仄かな光の中に妙心の坊主頭が靜かに平七郎の方へ向つてくる樣子である。平七郎は咄嗟の機轉で、ごろりと起直るや濡れ掾の隅と教へられた便所の方へ立つて出た

妙心は悟られたかと思つたか、そのまゝ蚊帳の裾にうづくまつてゐる

平七郎は、この厚意を示してくれながら、奇怪な行動に出た妙心を如何に受け流すべきか判斷に迷つた。この尼僧妙心こそ、かの善光寺大誓願尼僧頭だつた天靈であつたとは誰が知つてゐやう

## 本居宣長翁

エス。エス生

三

翁と士淸翁とは學問經歷の上に似た所が非常に多くまた關係も深い。士淸翁の日本書紀通證と翁の古事記傳、和訓栞と詩の玉緒といつた風な國學史上の業績に關することは後日述べる翁の妻君が士淸翁の住まれた伊勢の津の八丁といふ町に醫を業とする深草玄弘といふ人の女であつた關係から、兩者の交通が結ばれたものと思はれるが、二十一歲の先輩である。しかも豪邁な氣象の士淸翁も、翁に對しては敬意を以て交つてをり、翁も亦士淸翁に送られた書簡等によつて察するに大いに士淸翁を尊敬してをつたことも明らかである

しかして、兩者往復の書簡を合はせて見ると、書物の貸し借りは勿論のこと士淸翁は和訓栞の草稿が出來ると松阪に送つて翁の一見を求めて翁を請ひ、翁も古事記傳の稿の成る毎に士淸翁の一閲を乞ふてゐることがわかり、その交際の奧ゆかしいことは、まことに學界千載の美談であるといはねばならぬ

但、その性格は必ずしも一致してをらず、士淸翁が豪邁で氣節を負うて終に諸侯の重聘にも應せず生涯處士で終つたに對し、翁は駘盪の氣象に富んだ溫厚の君子人であつた。そのゆゑか翁の門流には俊傑が輩出し學統が永く榮え今なほ翁の學問の流を汲まぬものはないといつてよい程である（終）


夜間診療

胃腸病 性病

內科 胃腸病科
花柳病科 性病科 皮膚科
專門

松村胃腸性病科醫院
（平町南町電話一〇七番）

平町呉服商組合

新一月二十二日ヨリ
舊十二月十八日ヨリ
七日間

御買上金三圓毎に

福引大賣出し

……福引券進呈……

景品は各店頭に山積！ 御贈答用に御仕着用に御買求めはぜひ加盟店より 各店獨特の新柄織元直仕入新安値品豊富に取揃へて奉仕的廉價可仕是非御用命を御まち申して居ります

贈るに便利 受けて重寶 ……商品券……

組合加盟店（イロハ順）

| | |
|---|---|
| 二丁目 | 伊關呉服店 |
| 五丁目 | 小野呉服店 |
| 土橋 | 渡邊呉服店 |
| 白銀町 | 川又商店 |
| 鍛冶町 | 吉田屋呉服店 |
| 新川町 | 谷屋呉服店 |
| 揺槌小路 | 松屋呉服店 |
| 古鍛冶町 | 安積屋呉服店 |
| 研町通り | 北川呉服店 |
| 三丁目 | 三井呉服店 |
| 新川町 | 諸橋呉服店 |
| 一丁目 | 仙臺屋呉服店 |

貸切り

專門優良車

乘心地の超特快適な三四年型デラツクスセダン着

何卒御用命願ひます

平町四丁目 鈴木自動車部 電話二一七番

新古書籍大賣出し

毎度多大なる御贔負有難ふ御座いました。本年も東京津田某書店の整理品を引受け恒例 舊正月二日より十日迄特別大賣出しを致しますれば何卒多少に不拘御求めの程を御願致します。

平町五丁目大工町通り 片寄書店

吉田眼科病院

平町紺屋町 電話六八番
醫學士 吉田久雄

外科 X光線 專門
入院隨意（自炊の便あり）
平町南町
上田醫院
病室完備 （電話一二九）

破魔弓と羽子板を
陳列致しました
【御子樣の御祝に是非】
ガスノヤ提灯店
平町四丁目 電話九五番

店舖移轉御知せ

一月二十三日二丁目西村屋藥店隣の隣へ轉居致しましたから倍舊の御引立を願ひます。

各位樣

高橋時計店

磐城共濟病院 （福島縣平町 電話六四一番）

內科 院長 醫學博士 石山謙郎 電話六四一番
小兒科 部長 岩手醫學士 平賀一忠
產科 婦人科 副院長 醫學博士 五十嵐雄二 電話三七〇番
外科 耳鼻咽喉科 部長 醫學士 大町久藏
皮膚泌尿器病科 花柳病科 部長 醫學士 前澤正 電話二七二番
X光線科 物療科 醫學博士 石山謙郎
技手 石山彪
衞生試驗所 獸醫 高後利雄
藥局 藥局長 藥劑師 吉本孝平
事務長 鈴木寶雄

◎毎日午前八時ヨリ
◎夜間診療開始）毎夜午後十時迄）
◎病室完備 入院隨意

高久病院 （電話五三一番）

平町田町

醫學士 高久忠
新潟醫學士 赤羽濟
藥劑士 佐竹[illegible]雄

內科 小兒科 外科 花柳病科 耳鼻咽喉科 レントゲン科

生花教授

池ノ坊 生花を懇切丁寧に御教授いたします、お遊びがてら御出で下さい。
平町四丁目和泉屋旅館
須藤まつの

小兒科
平町南町五〇番地
志賀醫院
電話一六二番
（入院應需）

# 此の際如何にすれば昔日の湯本に還るか
## 區議十二名が總出動で
### 全國的に温泉復活資料蒐集行脚

先年來殆ど衰滅に歸した湯本温泉を復活せしむべく、經費豫算五萬四千六百六十圓（内譯一萬五千圓斜坑掘鑿岩石十五萬才△二萬千四百圓機械鐵管捲揚ロップ軌道ポンプ附屬品一切△七千二百十圓電氣設備一切電力代△八百圓坑内試錐費△五千圓揚湯管鑿孔費△五千二百五十圓職工其他給料）の巨費を投じ、新に同町地下より揚湯せんとする同町嘗て無き大仕掛けの所謂復湯案は、一昨秋同地愛湯會の手によつて計劃され乍ら多額の經費を要する事でもあり、其間尚は研究の餘地が少からぬものある爲、賛否區々の裡に荏苒今日に至つたが、由來右に關する議論の中心點は、之迄入山等から受けた温泉補償金其他今や相當の額を蓄積しある大字湯本區の區有財産を、區民共同の目的に使用せず一部營業者を潤ほすに過ぎぬ此種の事業に投じ而も其の結果が未必的性質のものであり、區民にとつて最も大事な虎の子の管理經營に就て乾坤一擲の大失敗を招くが如き事があつては全區民の爲眞に由々しい問題であると云ふにあつて急遽の決定困難もさこそと肯かるるものあるが、愛湯會折角の創意でもあり結局何れかに去就を決せねばならぬので同區議十二名は此程二班に分れて、伊豆の伊東、其の他温泉の沽涸に就て同町と事情を同じうする各方面を視察し、沽渇後の善處實一惰乃至之に伴ふ損害の補塡方法、現在關係住民の生計狀態其他各般に亘つて詳細な調査研究を遂げ歸町の上夫々資料を取り纏め中との事で温泉復活による同町百年の大計は、之によつて何等かの決定を觀るでは無いかと看取さる

# 匪賊と戰ひ乍ら農事にいそしむ
### 武裝移民甲高君通信

平第二校では曩に全校兒童から雜誌その他を集め目下北滿の地に活躍してゐる本縣移民團に平町久保町出身甲高三郎君宛慰問したが今廿五日同君から禮狀と共に左記通信があり今朝會に披露された

——（前略）各小隊の現在の仕事は收穫も終りまして明春の個人家屋建築材料の伐採運村に努力致して居ります、然し凍期間が一番匪賊が横行するので一寸の油斷も出來ず實に緊張した生活をして居ります、一週間前にも秋田小隊員が作業中、若干の土匪に襲はれて殘念乍ら一名戰死致しました、農業移民とは言へど年中匪賊、それ討伐だ——で農耕は少しも進行せず總ての仕事に出掛けるにも銃をはなさず作業に從事して居る次第です、然し吾々は北滿の人柱となる覺悟にて最後の一人まで目的を貫徹する考へで奮闘致しますから御安心下さい、御蔭樣で福島小隊は昭和九年度個人家屋十個完成致しました、今年度召致家族十六名ですが皆な元氣で夫と共に努力し女の仕事としては炊事勤務三名、五日連續厩當番三名、緬羊係二名と分擔して働いて居ります（後略）——

# 愛谷江筋を跨いで鐵骨火の見建設
### 櫓下をポンプ置場に利用

平町五丁目火防組では昨年七月區長、消防組等と協議の結果、五丁目、立町、正見町、大工町、新川町、四丁目一部の各區長、火防組員が主となり消防組員の後援を受け總費約七百圓の寄附を仰ぎ五、六丁目を境する愛谷江筋を跨ぎ高さ約四十尺、基底約四間四方の鐵骨火の見櫓を新設することになり、その後著々寄附の募集に努めて居たが、最近右火の見櫓の竣功を待つて該櫓の基底部を自動車ポンプのガレーヂにせんとするの議が起り目下研究中で櫓完成と共に現在の江筋橋を交通量に相應しい頑丈なものに架け換ね、一方の櫓干をガレーヂの開閉扉に共通させ該ガレーヂを消防分禦樣のものとし町東部の不時に備へる計劃であると

# 第二師團馬匹檢査
### 郡下の日割決定

既報—來月六日より郡下で行ふ第二師團獸醫部の九年度地方馬檢査日割左の如し

六日四倉、七、八日平、九日小川、十日湯本、十一日泉、十二、十三日植田署管内

○○○○第二朗讀研究會　平第二校では今學期より毎週金曜日に職員の讀本朗讀研究會を開くことになり今二十五日放課後第一回を開いた

# 平商四五年生が舊正二日市應援
### 多數動員の計畫樹つ

平商では例年の通り來月五日の恒例舊二日市には實習のため五年生及び四年生の一部を市内各商店に手傳はせるが弗々申込あり今年も豫定以上を動員する模樣で成る可く早く申込まれたいと

き對公衆サービス改善其の他協議

○○○○酒井伴城氏寄附　平町田町酒井伴城氏は今二十五日小學校備品として町役場に練炭用火鉢三個（價格十圓五十錢）に添へ練炭三箱（一圓八十錢）を寄附

# 鉛管が破裂
### 本格的の寒さに水道事故頻發

こゝ二、三日來の寒さに水銀柱はグン／＼下る、愈々本格的寒さが訪れて町役場の水道課に告げられる鉛管破裂は一日七、八件にも上る日もあり平日ですら四件位だと係員はコボしてゐる

○○○○入山試掘許可　入山採炭會社出願の双葉郡久の濱町間廣野村に跨る七十六萬二千八百坪の石炭試掘は此程許可になつた

# 平驛步廊上屋增築申請
### 西方へ三十米延長計劃

平驛では昨報の如く貨物上屋の增築常磐線ホームの改善などを當路に申請した外、尚現在の常磐線ホームは東側に上屋が多く肝賢な西方に短いので雨天等の場合に於ける二等乘客のため同上屋を西方に三十二米延長する事を同時に申請した

○○○○衞生區長改選　平町紺屋町衞生區長は塙幸吉氏、材木町同島辰次郎氏に改選

# 組頭に不服
### 赤井消防に小動搖

赤井村消防組では組頭鈴木義晴氏の辭任により此程幹部會で後任者詮衡中突如同村諏訪神社社掌白土岩尾氏が就任したので寢耳に水の組員等は不服で目下對策協議中である

○○○○平局主事會　平局では明二十六日午後主事會議を開

# 郷土の史的時事解說（二）
## 白水阿彌陀堂の第二回修理
### 本堂宇の特別保護建造物並に內擴安置五佛像國寶各指定に就て（四）

勿來生

賴義はまた國解を上つて當時の困難を述べ、且つ是れに因つて出羽守源乘長の來援を求めたが、彼れは應じないのを恕へた。されば朝廷は乘長の任を止めて源齊額を出羽守に任じ、賴義と協力して貞任を伐つことを圖つたが、賴は之に努める心がなかつたので賴義は倍々孤立に陷いつた。夫れゆゑ官軍は兵粮共に追窮し、賊は益々暴威を逞うした。此かる時、出羽仙北郡の俘囚長たる清原光賴及び舍弟武則等の勢力を恃んで官軍に勸誘した。所が康平五年（一、七二二）の春になるや賴義の重任がまた切れたので、朝廷は高階經重を陸奥守に任じて國府に下らしめたが、國内の人民は熟れも賴義に服してゐたので、新國守の威權は達せられず、經重は間もなく京都に還つて了つた

賴義は只管出羽の清原兄弟の援兵を要めた結果として武則が其の年七月、兵一萬餘人を引き連れて陸奥に於ける將軍の許に行かんとした。是れに於いてか將軍は大いに喜び自らも三千人を率ゐて七月二十六日、國府を發し、八月九日栗原郡營岡へ至つて武則を迎へ、兩兵を合せて同月十六日進んで磐井郡中山の大風澤に至り、翌日は同郡荻馬場に至り、小松柵の直前に陣し其の夜から戰を起し、其の翌日に至つて大激戰した。柵の賊兵は遂に敗走し、敵將阿倍宗任（貞任の弟）は柵外に敗走するに至つた

此の際霖雨がつゞき、官軍が太だ困つてをるのに乘じ、九月五日貞任は八千餘人を以て攻めた。官軍は之に怯まず邀擊して破り、貞任の破れて北ぐるを追ひ磐井川の河岸に至り賊兵を擊破した

# 列車驀進の線路に橫たはる妙齡の娘
### 厄介な色狂汽車を遲らす

昨二十四日午後零時半頃植田泉間植田町石塚地内上り線に折から平發の貨物列車が驀進し行くも知らぬげに縊入つてゐる妙齡な女あるを機關手が逸早く發見急停車したので事無きを得たかこれがため同貨車は多少遲延出發した、驛員が誰何すると『餘計な事だ』と劍突をくはせる始末に狂人と判り早速植田署に身柄を引渡し同署で取調べの結果勿來町遠山岡部シケ（一七）と云ふ色狂ひと判明保護中

# 風は唸る舊歳末
### 今日から師走も下旬に
### 慌しい街頭點描

地方人にとつては正に第一義的年の瀬、舊歳末も今日から最後の旬日に入つた、新よりは寧ろ此際既往一年を清算せんとする各商店街は夫々趣向を凝らし乍らメーキャップに歳末狂燥曲を奏でて居る、凶作騷ぎ何のその、何せインフレ景氣（?）落正月だ近郷からも相當出やうと書入れを前に商人の鼻息荒い景氣打診。以下歳末點描二三。

◇

大きなメガホンから吹き出される歳末景氣。呉服店の聯合福引大賣出しを序曲として大ぶそれらしい景氣も動き出したやうだが今の處では何と云つても呉服組合が王座を占めて居る。一等の當籤にけたゝましく鈴が鳴る、お客の相好が崩れる、慌だしい暮の町に朗かな場景である、大小店員の神經は抹梢的に冽ね上つてゐる

◇

荒物問屋の店頭にはミカンの山が築かれてある『靜岡物の大きいとこで一箱マア六十錢から九十錢、昨年の値と大差ない』正月飾りは此の廿八頃日には店頭に陳べられるが此の邊に來るのは殆と東下り物うす高く積まれたミカン山の蔭から丸い顏ばかり出して『景氣はよいですよ…』と兩頰を眞赤にした小僧迄が忙しさうに水はなを啜る

◇

傳統的の贈答品。こゝに鹽引景氣がある、北海道、樺太産の小さいものより米國産が全盛、相場は十三割から十五、六割で昨年より三割も安い

# 合法的の處分だと窃盜行爲を否認
### ＝浪江の森林紛爭公判＝

双葉郡浪江町大字權現堂字鳥喰山田金之助（呉）に係る電柱窃盜事件は昨二十四日午後二時半から平區で香西判事係り、白水檢事關與、松野尾辯護士立會の下に開廷されたが、被告は仙臺の七木請負業山家爲之助（告訴人）から材木の伐り出しを委託され入夫多數使用從事したに拘らず山家はその料金を鐚一文拂はず、人夫の賃金一囷り剩へ道路監視人からは縣道より積重ねある電柱材の撤去を迫られ納入外は賣却賃金に代へても良いとの契約あつた所から賣り拂つた理窟の通つた賣却で窃盜でないと反駁したので來る二十九日續行することとなり當日證人として山主篠木平愚、人夫頭篠木眞の兩名を取調べることになつた

# 怖ろしい少年犯一年に七十七件
### 戰慄すべき其筋の統計

平檢事局に於ける昨年度中の少年犯取扱件數は

| | 男 | 女 |
|---|---|---|
| 刑法犯 十六歳未滿 | 七 | 二 |
| 十八歳未滿 | 五七 | 一 |
| 特別法犯 | 五 | 六 |
| 計 | 六九 | 八 |

總計七十七件で前年に比し一件の減、その犯罪種目は竊盜の六十二件（男六十、女二）を筆頭に詐欺、横領、傷害各三件、贓物收受、賭博各二件、失火、住居侵入各一件で京濱方面より戻つた徒食者に多くその動機としては小遣錢に不足し、又は惡友に唆かされたものが最多を占め、大部分は大酒呑みを父に持つた者であると

舊歳末賣出福引當籤者（廿四日分）　特等内鄕村小林某、1神谷村片寄兵吾、内鄕村馬目酒店、平町會川鶴吉

○○○○野呂局長視察　郡山野呂郵便局長は今二十五日平局の保險年金事務視察

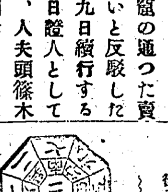
○○○○デフテリア　平町胡摩澤二六中島進（九）は今二十五日デフテリアと決定

○○○○四丁目でボヤ　昨夕六時頃四丁目卜印專伊藤鮮魚店方物干場に火あるを折柄便郵局電信室で勤務中の大内君等が窓越しに發見電話で急報した爲め直ちに消し止め危い處を大事に至らなかつたが右は取り込み忘れた乾蒲團へ自家の風呂煙突から飛火したものらしいと

○○○○古物商營業停止　内鄕村大字宮字金坂四九古物商伊藤勇治（三三）は一昨年十月古物商違反で罰金五圓に處せられたにも性懲りず昨年二月平町大町大家虎次郎が前後十八回に亘り窃取した銅線を情を知りつゝ買ひ占めた廉により此程縣知事から古物商取締法第十四條により營業停止を命ぜられた

二十六日（小名濱測候所調查）
日出 六、四二　月出後 一一、〇九
日沒 四、五七　月沒前 九、三三
滿潮前 七、三五　干潮前 一、一五
後 八、一〇　後 二、一五

舊十二月二日　土曜　新一月二十六日
壬寅　先負　除　胃宿



諸判定處需　東京市本鄕區湯島四丁目五番地　高島易斷總本部　神宮館

▲一白の人　萬事進んで宜し退き守る時に非ず後ろ勿れ▲二黑の人　浮き腰にして物に實入らず動きは愼むべし▲三碧の人　運氣の岐れ目に當る日何事をも愼しむが安全▲四綠の人　努力は萬福の基ひ辛抱强き者は末勝を占む▲五黃の人　守れば失なし勝たんとすれば却て負となる▲六白の人　得る所少なくも妄りに進出すべからず注意▲七赤の人　想ひを焦すのみにて壯圖窓の如く成ざる日▲八白の人　發展を望むより平和を願ふべし失物も注意▲九紫の人　心に緩みなければ知らず識らず好運に向ふ

廣告

天下一品マヅイ 素人料理 おでん 榮ちやん 花ノ里 新田町

平南町 川井內科診療所 電二四三

平町六丁目 木村醫院 電話三〇九番

安齋外科醫院 平町田町 電四七五番

舊正月二日 賣出し
品物は好く安く 景品は澤山 ぜひ金光堂へ
精工舍製腕時計（當日限り）七圓五十錢より
掛時計（當日限り）三圓五十錢より
精工舍目覺（當日限り）一圓八十錢より
金光堂特製携帶蓄音器（ポータブル）十五圓より
レコード宣傳盤 五十錢より
子供レコード 二十五錢より
弊店にては好い品を安く賣るとの信念のもとに迅速且つ親切をモットーとして一九三五年は大いに躍進する覺悟ですから一層の御用命を切に御願いたします。
時計 貴金屬 眼鏡類 鐵道省御用 ビクター コロムビア ポリドール 特約店 金光堂時計店 蓄音器部 平町五丁目 電話一九五番

福は內會……會員募集
二月四日（舊正月元日）
午後一時修祓、一時半家內安全祈禱、二時豆蒔執行、二時半世話人祈禱札、並に福豆を分配す。
▲會費二拾錢 御祈禱札大…一圓 小…五十錢
▲年男御希望の方は金五圓納付の事（大祈禱、福豆、福枡、紅白餅、記念盃並に本膳付）
◎會員には家內安全祈禱の御札及福豆、御神酒を差上ます。尚十人一組の割合にて一組の內へ金体大黑天一個を授く
事務所 平町紺屋町 扇屋旅館內 電話一六五番

舊正二日 景品附特價大賣出し
一本で十年完全無缺を誇る 錦綢傘
各位樣も是非一度御使用して眞價をお試し下さい
御名入註文に應ず
（小僧さん入用）
郡代理店 磐城平五丁目 田口はき物店 電話三七七番

洋服は高島屋
注文並に既製品
高島屋洋服店 平町二丁目 電話三八六番

磐城家庭婦人會
皆樣方の御手不足を補ふ家庭婦人會が出來ました どうぞ御試用下さいませ。
親切。迅速。
◎會員募集（入會金ト維持費ハ申受マセン）
平町字田町五（元郵便局ウラ） 駒井ヒデ 電話三九九番（呼出）